

令和 3 年度 第 2 回 全国健康保険協会千葉支部評議会概要報告

開 催 日	令和 3 年 10 月 27 日（水） 14：00 ～ 15：45
開 催 場 所	千葉 TN ビル 4 階 千葉支部会議室
出 席 者	飯田評議員、小賀野評議員（議長）、新谷評議員、鈴木評議員、中野評議員、萩原評議員、宮本評議員（五十音順） 欠席：椎名評議員、米山評議員
議 題	1. 令和 4 年度保険料率に関する論点について 2. インセンティブ制度の評価方法等について 3. 令和 4 年度支部保険者機能強化予算（案）について
議 事 概 要 （主な意見等）	事務局より、各議題について説明を行った。 各評議員からのご意見等は以下の通りである。 1. 令和 4 年度保険料率に関する論点について 【学識経験者】 長期のトレンドで見ると 10%を維持してもいずれ厳しい状況になると試算されており 10%維持は仕方がないと思う。しかし、今後 2～3 年の準備金残高の予想推移を考えると平均保険料率の引下げが難しいのであれば、国民の健康づくり（特定健診の補助額の引上げ等）の観点から何らかの形で加入者へ準備金を還元できないか。 【事務局】 全国的な加入者数は鈍化傾向にあるが、千葉支部としては増加傾向である。そのため平均標準報酬月額も維持されつつ推移していくものと考えているが、現段階で伸び率が順調であっても中長期的な視点で見ると楽観はできない。 平均保険料率を引下げると、国庫補助も少なくなる可能性がある。準備金は、平均保険料率が 10%を超えないようにするための準備資金であり、収支差が赤字になった時に取り崩すべきものであるため加入者へ直接還元することはできない。 【学識経験者】 千葉県内の健保組合における解散の見込みはどうか。また、健保組合の解散により協会けんぽへ編入した場合、協会けんぽの財政は潤沢になるのか。 【事務局】 千葉県内の解散の見込みについてはわからない。令和 3 年度の予算集計では、健保組合の約 8 割が

赤字計上見込みであり、県内において今後解散する健保組合も出てくる可能性はあるが、編入した場合、解散時の健保組合の規模や財政状況により影響は異なる。

【事業主代表】

健保組合の解散基準は、保険料率 10%を判断基準としているのか。

【事務局】

都道府県ごとに設定されている協会けんぽの保険料率を判断材料のひとつとしている健保組合もあると思われる。

【学識経験者】

新型コロナウイルス感染症の影響により医療機関の受診控えが発生したと言われていたが、最近の医療機関における手術件数や外来受診者の割合はどうか。改善されているのか。

【事務局】

直近の動向を見ると、令和 3 年 6 月時点の対前年同月及び前々年同月における医療費が伸びていることから、比例して手術件数も増加しているものとする。

【事業主代表】

想定されているケースであれば、準備金残高が減り始める 2024 年まであまり時間がないように感じるが、具体的な対策にかかる事業を検討しているのか。

【事務局】

医療費の適正化と健診・保健事業の拡充を中心とした事業を展開していきたいと考えている。

(総括)

- ・平均保険料率は 10%維持で異議なし。
- ・保険料率の変更時期は令和 4 年 4 月納付分からで異議なし。

2. インセンティブ制度の評価方法等について

【学識経験者】

千葉支部の取組結果が適切に反映されることを期待している。

【学識経験者】

評価方法を多少変更したところで千葉支部の評価に大きな変化が出るものではない。これからは新型コロナウイルス感染拡大の影響で縮小した事業や思わしくない結果となった事業について、着実に実施することが重要である。

(総括)

- ・令和 2 年度実績値については、補正を行わず評価することで了承を得た。
- ・令和 4 年度保険料率に反映させるインセンティブの保険料率を 0.007%に据え置くことに賛成する。
- ・評価指標の見直し内容について意見の変更なし。

3. 令和 4 年度支部保険者機能強化予算（案）について

【学識経験者】

ポリファーマシー対策の事業経費を削除した理由のひとつにマイナポータルで確認できるようになると説明があったが、多剤併用に関する対象者の多くは高齢者が多く自身で把握するのは難しいと思われる。また、医師・薬剤師から患者へ注意喚起できるような取組みはできないか。

【事務局】

協会けんぽ加入者の年齢構成は比較的若い傾向にあり、多剤併用の対象者があまり多くないため「ポリファーマシー対策」は実施しないこととした。ただ、全く事業を行わないということではなく、支部として以前から 1 か月あたりのレセプト枚数が一定以上の方に定期的に注意喚起の文書を送付している。今後、患者の同意は必要であるが、医師・薬剤師がオンライン資格確認等システムの薬剤情報を活用することで、他院の薬剤情報が把握可能となり管理がしやすくなると思われる。協会としても医師会・薬剤師会と連携し情報共有を図っていきたい。

【学識経験者】

広報媒体に関する事業の見直しがいくつか見受けられるが、広報は 1 回だけでは効果がない。継続することに意味があることを改めて認識してほしい。手段として広報の頻度を上げることやお金をかけない広報媒体を検討するなどしてほしい。

【学識経験者】

健康経営を実践する事業所が増えてきていると感じている。外部機関との連携を積極的に行い、協会としてできるサポートを考えてほしい。

(総括)

- ・令和 4 年度支部保険者機能強化予算（案）について了承を得た。

特 記 事 項

- ・次回は令和 3 年 12 月開催予定。
- ・傍聴者なし